

環境に優しい 蝶理オリジナル商材の開発



藤井 俊介 (ふじい しゅんすけ)
蝶理MODA株式会社
代表取締役

ロハス（LOHAS）に代表される環境問題がますます重視される中、蝶理の繊維事業では、環境に配慮した「蝶理オリジナル商材」の研究・開発に力を注いでいる。

この研究・開発のけん引となっているのは2つの部隊で、一つは、ファブレスの合繊メーカーといわれるまでに成長した繊維原料部、そしてもう一つが蝶理のマーケティング部が母体になって2004年に設立された繊維企画・開発の専門家集団 蝶理MODAである。

まず、蝶理の繊維原料部の開発力について説明すると、同部は主に合繊原料を扱っており、年間のポリエステル長繊維販売量は6万トンに達する。このため、供給責任を全うすることを第一とし、ポリエステルとナイロンに特化した活動を行っている。その代わり、両素材の品ぞろえには絶対の自信を持ち、オリジナル企画を原糸メーカーに提案し、蝶理向けに作ってもらう

ことも多いのも、ファブレスの合繊メーカーといわれる由縁である。そこで、環境に配慮した商材を原糸メーカーと手を組み、開発されたのが「ECO BLUE」である。

ECO BLUEは、旭化成せんいとの提携により、ブランド展開している再生ポリエステル糸である。基本は、ポリエステル100%の繊維製品をケミカルリサイクルで高品質の繊維へと再生させ、もう一度繊維製品を生産する循環型ケミカルリサイクルと、ケミカルリサイクルが不可能な繊維製品は、特殊工程により産業資材用途へ転用するリユーズリサイクルの2種類のリサイクルシステムを活用することにより、すべての繊維製品を合理的で、かつ低コストでリサイクルすることを可能にした。具体的には、主に、蝶理が提携する石川県や福井県の生地裁縫工場が発生するポリエステルの繊維くずを回収し、旭化成せんいの工場で再生繊維のポリエステル糸に加工し、その再生繊維は、官公庁向けの制

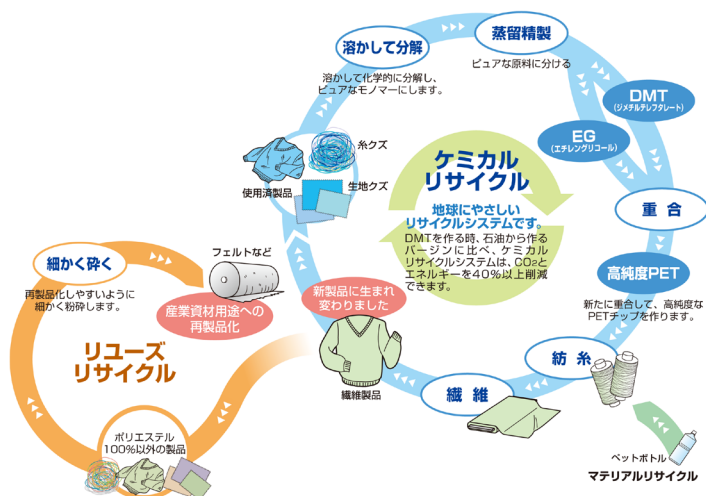


図1 ECO BLUEのリサイクル方法

服、カーテン等として販売されているが、2008年度内に内外のスポーツアパレル向けの販売も始める。すでに月間100トンにまで販売量を伸ばし、将来的にはエコマークの取得をめざしている。

次に、蝶理MODAの業務内容は、①ファッションビジネスで培ってきた企画情報関連事業、②蝶理の次期ビジネスの芽を育てるための新規オリジナル商材開発事業、③中国の生産現場での技術指導やOEMビジネス推進のためのデザイナー・パタンナーなどの人材派遣事業が3本柱となっている。

蝶理では、毎年6月と12月にECO・環境をキーワードとする「SLOW LIFE」を基本テーマとした繊維総合商談会を東京の青山ベルコモンズで開催しているが、この商談会全体のプロデュースと、毎回提案しているECO・環境をテーマとする新商材の開発は、当社が主体で行っている。

これまでに提案してきた新商材は、ホルマリンを使わない形態安定加工「NOCXNOC」、紙糸繊維「OJO+」、夾竹桃科（多年生植物）織



第10回繊維総合商談会

維「ロープーマ」、肌に潤いを与える「Siltein」加工、塩素を使用しないウール防縮加工「ECO Shrink Saver」などがあり、ここから展開した蝶理オリジナル商材は少なくない。その代表的なものが、「ナチュラルダイ」である。

ナチュラルダイは伝統的な染色法である草木染を改良し、抜群の堅牢度を実現した新自然染色法である。シオンテックが20数年かけて開発したもので、自然タイプのカチオン性バインダー（天然染料の約3%）を使用することにより、色素強度に優れ、しかも均一な染色を可能にした。少量の化学バインダーは使うが、高染着性能により廃液中に溶出する色素が少なく、また、コーヒー、ジュース、パン、果実、材木など、さまざまな残さが色素として使用可能であり、あらゆる繊維素材が染色対象となるため、健康や地球環境に十分配慮した染色法である。ナチュラルダイで染めたエコバック、Tシャツなどはエコロジー商品として市場の注目を浴び、需要が増加している。

このような新製品の開発を可能にしているのは、蝶理グループが有する川上から川下までの総合企画力、すなわち「繊維総合力」である。今後とも、蝶理グループの繊維総合力を駆使して、環境に優しい蝶理オリジナル商材を研究、開発し、世界に向かって発信していきたいと考えている。

JF
TC

表1 繊維総合商談会での提案素材等

第1回 (2003年6月)	「SLOW LIFE」をテーマに新生蝶理を業界にアピール。シンポジウムの開催やNOCXNOCなどの商材、原料・素材・製品一環取り扱いを提案
第2回 (2004年6月)	紙糸繊維「OJO+」の提案
第3回 (2004年12月)	会場内に花壇を数カ所作成し、自然との共生をアピール
第4回 (2005年6月)	ペルー産超長綿（ピマ綿）「アンデス物語」のナチュラルダイを提案
第5回 (2005年12月)	ウールのナチュラルダイを提案
第6回 (2006年6月)	シルクプロテイン加工Silteinの提案
第7回 (2006年12月)	夾竹桃繊維ロープーマの提案
第8回 (2007年6月)	草木（植物）染め、鉱物染め、残さ染めによるナチュラルダイ・ライフスタイル提案
第9回 (2007年12月)	無塩素防縮ウールニットECO Shrink saverの提案
第10回 (2008年6月)	本藍の粒子は微細小で繊維の奥まで入り、その工程の特色からも「中白」が不可能とされてきたが、本藍100%中白デニムの開発に成功
第11回 (2008年12月)	合織のエコロジー化なくしてアパレルのエコロジー化はないとの思いから、最も困難な合織をナチュラルダイすることにチャレンジ